

Ref. 13: JP-U-52-144761

Application No. 51-53161

Application Date: April 27, 1976

Title of The Invention: Solute measuring vessel for
attenuation

[Brief Description of Drawings]

Fig. 1 is a section view of an embodiment according to
the invention, Fig. 2 is a developed view of a measuring
portion of the same in Fig. 1.

Reference Numerals

1: vessel body, 3: measuring portion, 4: graduation.

Ref. 13: JP-U-52-144761

Application No. 51-53161

Application Date: April 27, 1976

Title of The Invention: Solute measuring vessel for
attenuation

[Brief Description of Drawings]

Fig. 1 is a section view of an embodiment according to
the invention, Fig. 2 is a developed view of a measuring
portion of the same in Fig. 1.

Reference Numerals

1: vessel body, 3: measuring portion, 4: graduation.

公開実用 昭和52— 144761



実用新案登録願

昭和 51 年 04 月 27 日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称 * シヤクツヨウシツケイヨク *
希釈用溶質計量器

2. 考案者

実用新案登録出願人に同じ

3. 実用新案登録出願人

長野県長野市三輪1丁目1番29号
アバ場ツネオ男

4. 代理人

〒160 東京都新宿区新宿4丁目3番22号(安藤ビル)

4866 弁理士 榊 澤 義 治(ほか9名)

電話 東京 352-1561(代)

52-144761

方式
審査

51 053161

明 細 書

1. 考案の名称

希釈用溶質計量器

2. 実用新案登録請求の範囲

透明材で成形され、底部より上方にいくに従って拡径となり上方に開口した逆円錐形の計量部を形成した容器本体と、この容器本体の計量部に入れた溶質の内容量に対して、これを希釈した場合の複数種の一定量の希薄溶液における倍率を示す目盛をそれぞれ前記容器の傾斜側面に施したことを特徴とする希釈用溶質計量器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は農薬などのような希めて使用する濃縮液または濃縮粉末を計量する希釈用溶質計量器に関するものである。

従来、農薬などの濃縮液や濃縮粉末などは水などで一定倍率に希釈して使用されることが要求され、このため溶質としての濃縮液や濃縮粉末を計つた後これより計算して溶媒としての水の量を求めたり、また水の量から溶質の量を計算したりして希釈していたが、このような方法は非常に手数がかかり、また希釈した希薄溶液がこの希薄溶液を収容するタンクの容積に比べ少量すぎて再度希薄溶液をつくらなければならなかつたり、また多量すぎてその残液の処理に困難を生じたりする欠点があつた。

本考案はこのような欠点を除去するため、逆円錐形をしたガラス製などの容器に、この容器に入れた溶質の内容量に対して、これを希釈した場合の一定量の希薄溶液の倍率を示す目盛を

施して、容易にかつ正確に溶質を計量できるようにした希釈用溶質計量器を提供するものである。

次に本考案の一実施例を図面について説明する。

(1)は容器本体であり、この容器本体(1)はガラス、合成樹脂などのような透明材から成形され、底部には厚みを有した円形の安定台(2)を形成し、この安定台(2)の上部に上方に行くに従つて直径となり上方に開口した逆円錐形の計量部(3)を直立させて設け、前記安定台(2)と前記計量部(3)が一体的に成形されている。

また液体または粉末のような溶質を水などの溶媒で希釈した希薄溶液の量を一定として、前記溶質の分量に対する前記希薄溶液の量の倍率

を例えば500倍、1000倍、1500倍、
2000倍としたときの溶質の分量をそれぞれ
計算によつて求め、そして前記計量部(3)の傾斜
面の表面にそつて一列に、前記計算によつて求
められた溶質の分量の容量を表わす位置にそれ
ぞれ目盛(4)をうち、それらの目盛(4)に対応する
前記倍率をそれぞれ表示した目盛部(5)を設ける。
また希釈した希薄溶液の量を例えば4 μ 、9 μ
18 μ と標数種として一個の前記計量部(3)の表
面に、それぞれの目盛部(5)、(6)、(7)を設ける。
前記容器本体(1)の計量部(3)表面に設けた目盛部
(5)、(6)、(7)から、必要な希薄溶液の量とその希
薄溶液の倍率においてそれらを示す目盛を選び
その目盛の位置まで前記計量部(3)に溶質を注入
して溶質を計量する。

4-171

本考案は上述のようにして一個の容器表面に、この容器に入れた溶質の含量に対して、これを希釈した場合の複数種の一定量の希薄溶液における倍率を示す目盛をそれぞれ施したことによつて、必要な希薄溶液の量とその倍率からそれらを示す目盛の位置まで溶質を前記容器に注入するだけで容易に溶質の分量を計量することができ、前記容器の計量部が逆円錐形で形成されているため、倍率が非常に大きくても目盛が前記計量部の下方に密接して目盛の読み取りが困難になることもなく、正確に計量でき、また倍率が非常に小さくても目盛が前記計量部の上方に極端に離れて位置することがないし、また溶質を希釈した希薄溶液の量を変えても等倍率における目盛の位置にも大きな差が生じないの

特
許
公
報

で、容器の寸を大きくする必要もなく、一個の
容器のみで、多種の計量をすることができる。

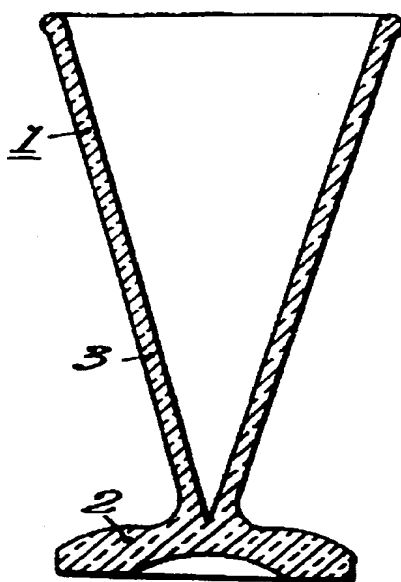
4 図面の簡単な説明

オ 1 図は本考案の一例を示す断面図、

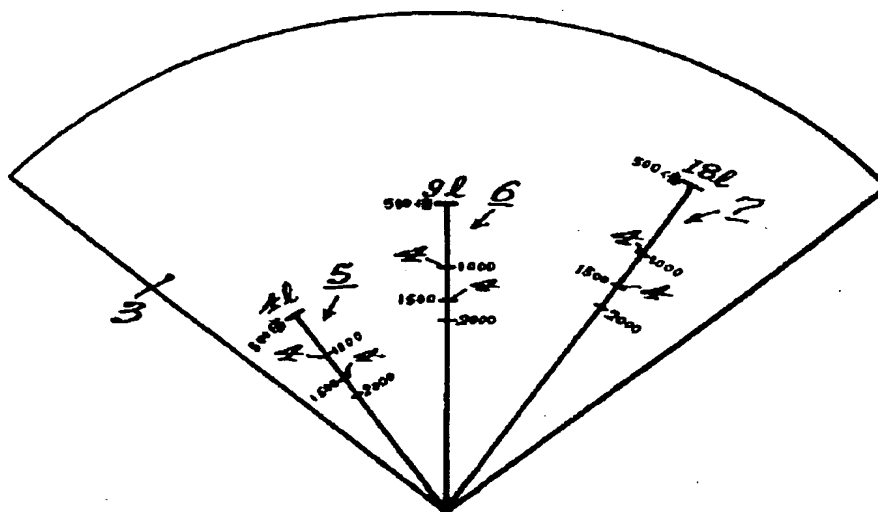
オ 2 図は同上計量部の展開図である。

(1)・・・容器本体、(3)・・・計量部、(4)・・・目盛。

第 1 圖



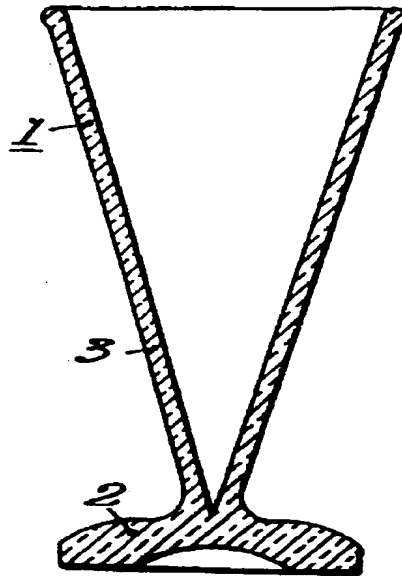
第 2 圖



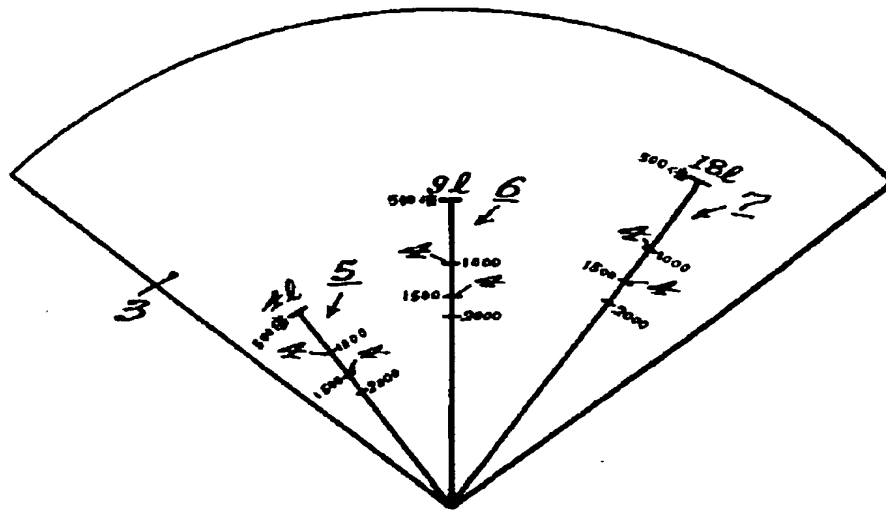
男 恒 場 麻 人 新 業 用 費
治 義 澤 樺 士 經 理 人
名 5 外 義 澤 樺 士 經 理 人

144761

第 2 圖



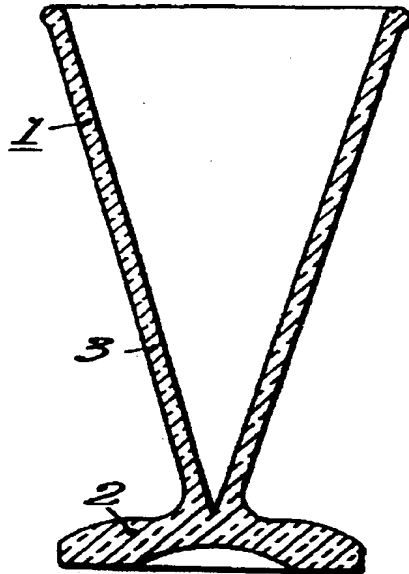
第 2 圖



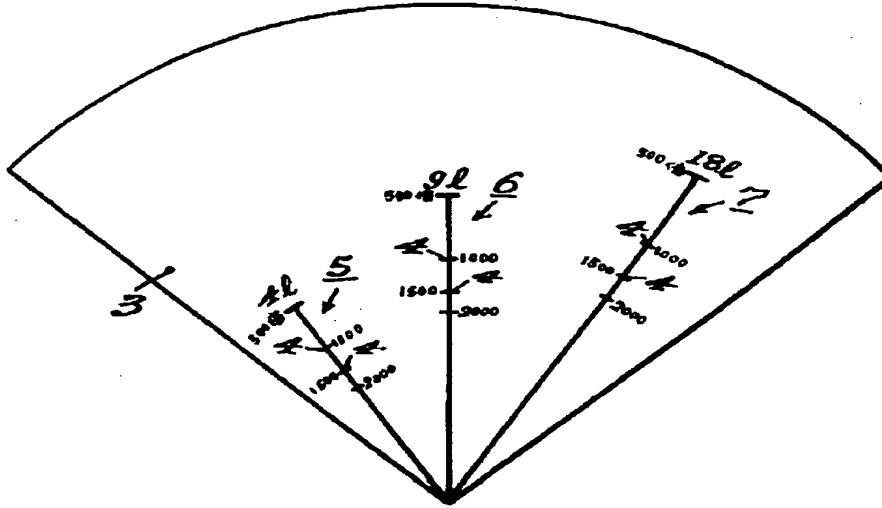
男 治 名 恒 義 外 5 名 場 澤 麻 樺 人 經 理 人 新 興 實 業 有 限 公 司 代 理 人

144761

第 1 圖



第 2 圖



男 恒 場 麻 人 總 經 理 新 基 實 用
治 義 澤 樺 士 理 人 代 理

144761

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (2) 図面 1通
- (3) 委任状 1通
- (4) 願書副本 1通
- (5) 出願審査請求書 1通

6. 前記以外の代理人

(3) 代理人

〒160 東京都新宿区新宿4丁目3番22号(安藤ビル)

6276 弁理士 樺澤 襄

同 所

6366 弁理士 樺澤 惇

同 所

6874 弁理士 宮下 正彦

52-144761